

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

「なぜ日本人は 幸せではないの？」 —つながり、学び合う—

理事長 丸谷士都子

❀村の人たちからのメッセージ❀❀❀❀❀❀

地球の木20周年記念事業の一環として、支援地の人たちからメッセージをもらいました。「あなたの村の好きなところは？」に対する答と共に、日本に関して知りたいこともあげてもらいました。

ラオスからは「家族が集まって、一緒にごはんを食べて、テレビを見ていること」「自然が豊かで必要なものはすべて森から得ることができる」「団結力がある」など、日常生活や地域のよさが伝わってきます。ネパールでは高校生たちが「社会的・文化的な多様性」「私たちの村では、カーストによる差別はなく、問題が起こるとみんなで一緒に解決する」と答え、地域社会への誇りが窺えます。カンボジアで織物を学んでいる少女は「プノムチソーの山の上には古い昔のお寺と遺跡があって、よい風が吹いていて、気持ちがいい」11世紀の初めに建てられたヒンドゥー教寺院はどの子にとっても自慢でした。

日本に関する質問は様々でしたが、ネパールの女子高生エソダさんは、「日本にはよい憲法があり、無償教育があり、医療施設もたくさんあるのに、日本人は幸せではないと聞きました。なぜでしょうか」と尋ねました。ネパールは2008年に王制から共和制に移行し、新しい憲法制定を目指しているところです。

日本は戦後平和憲法を作り、急速に発展を遂げ、社会制度や設備を充実させてきました。しかし今、経済発展の陰に人々の絆やコミュニティの崩壊・伝統文化の衰退などが進んでいることも事実です。このような支援地との交流から自分たちの社会のあり方を考え、伝えていくのも地球の木の役割のひとつです。

CONTENTS

- 「なぜ日本人は幸せではないの？」 ……1
- 織り親に届いたスカーフ ……2
- 気仙沼だより その1 ……2
- 共に歩む 平楽中との国際学習の取り組み ……3
- たうんチームがいきいきと始動！ ……3
- INFORMATION ……4



奨学生のエソダさん(右から3人目)

❀地球の木の役割❀❀❀❀❀❀

認定NPO法人となり、設立20周年を迎えた昨年度、改めて地球の木の役割を考える機会を持ちました。数回にわたる話し合いの末、地球の木のミッションを次のように定義しました。

「今世界で起こっている途上国の貧困や低開発等の南北問題は、先進国による植民地主義に発し、現代のグローバルな市場原理に基づく構造的なものである。この世界の構造的な問題はさらに広がり、日本社会にもその影響が及びつつある。地球の木は、この問題解決に向けた具体的な取り組みとして、海外支援プログラムをおこなう。国内外の人たちとつながりながら、その問題と私たちの生活との関わりを生活者の視点で考え、新しい生活のあり方を提言することで、世界の構造を変革していく一翼を担う。」

目指すことは、世界のしくみの中で生まれた不公正と自分たちとの関係を理解すること、そしてプログラムを行いながら生活者の視点で問題解決に向けた力を育むことです。

❀これからの海外プログラム❀❀❀❀❀❀

ネパールマンガルタール村で実施している「幸せ分かち合いムーブメント」は、村の人たちが主体となった教育や生活向上の活動が順調に行われ、今年度から少しずつ隣村に移行していくことになりました。ラオスでは、家畜銀行のシステムを支援することで、水牛を通して見えてくるラオスの暮らしに焦点をあてていきます。カンボジアではフェアトレードを目指した生産者支援を継続します。

地球の木がおこなう海外プログラムは、ミッションを進めるための具体的な場であり、身近に学び合う場でもあります。つながることで共によりよい社会のあり方を考え、解決に向けて取り組むことを目指していきます。

織り親に届いたスカーフ

「織り親募金」は、タケオの職業訓練センターの生徒たちの技術やセンスの向上を応援するために「織り親」になってもらうというものです。「織り親」になってくださった方には、生徒たちの織ったスカーフを1枚プレゼントするという企画で、32名の皆様に協力いただきました。

13名の「織り親」の方が、「地球の木カフェ」の日などにスカーフを選びに事務所へ足を運んでくださいました。「織り親」の方々には、選んだスカーフを身につけた写真を撮らせていただき、スカーフを作ったタケオの職業訓練センターの生徒たちへのメッセージも書いてもらいました。この写真とメッセージをカンボジアに送ったところ、早速、現地連絡係のタリーさんがセンターを訪れ、生徒たちに手渡してくれました。

4月中旬は、カンボジアではお正月です。タリーさんから、生徒たちの様子やカンボジアのお正月についてのレポートが届きました。(クメールシルクチーム 筒井 由紀子)



センターの少女たちとタリーさん(右端)

地球の木の皆さんへ

地球の木の皆さんのメッセージを見て、子どもたちが「これは何」と聞きました。最初、そのカードを見てすぐびっくりしていましたよ。スカーフを買ってくれた人とそのメッセージを初めて見ましたから。そして、日本語が読めないで私に翻訳してくれないかと頼んできました。それを読んであげるとみんなは静かに聴いていました。すごく感動していました。皆さんにとっても感謝していると思います。

センターの子どもたちのお正月

カンボジアでは毎年4月の中旬に三日間、クメールのお正月が行われています。今年のお正月は4月13日から15日まででした。三日間いろいろなお祭りをします。

一日目は、都市でも田舎でもそれぞれの家は、いろいろな花やキラキラライトなどを飾り、神様に飲み物や果物を供えます。神様に健康や幸福になりますようにとお祈りします。

二日目は、カンボジア人はカレーのようなクメールの伝統的な料理を作って、お寺にその料理を持って行きます。お寺はとてにぎやかです。夜は、お寺か村でコンサートがあります。皆さんはそこに集まって、一緒にダンスをしたり、伝統的なゲームをやったりしています。

三日目は、だいたい二日目と同じです。そして、神様に供えたものを食べます。

クメールのお正月は、センターでは10日間、学校も2週間くらい休みになりました。ですから、センターの子ども達は家族とゆっくり過ごしたり、センター以外の友達と遊んだりできました。そして、お寺に料理を持って行って、村の人々と伝統的なゲームをしたり、遊んだり楽しく過ごしました。センターの子ども達も楽しかったことでしょう。

(クメールシルク連絡係 ハイ・タリー)

気仙沼支援報告

東日本大震災の緊急支援として、地球の木がこれまで支援を続けてきた「IVY気仙沼」の若者たちが、4月1日よりNPO法人「Tree Seed」(申請中)として、新たな活動を開始しました。



気仙沼だより その1

昨年の3.11から早1年が過ぎました。今、気仙沼はボランティアにあふれた街から観光の街に切り替わりつつあります。もちろん復興にはまだまだ時間を費やさなければなりません、市民全体が脱被災者の気持ちを掲げ、前に前に進もうとしています。しかし震災の爪痕はまだ大きく残っており沿岸部は1年たっても変わっていないというのが現状です。もうひとつ変わらない爪痕が私たちの心の中に残っています。

ゴールデンウィークをはじめ週末になると多くの観光客が訪れるようになりました。気仙沼で多くの方が訪れるのが海から500mも離れたところに打ち上げられた大きな船です。船の下には献花台が設けられ、訪れた方が手を合わせていけます。なぜそこに献花台があるのかというと、船の打ち上げられた場所の裏には元々駅があり、その地域の避難場所になっていました。3.11の地震の際、多くの方が避難をしていたのですが、予想をはるかに超える津波で子どもを含む多くの方が犠牲になったという背景があります。「Tree Seed」では、今後、仮設住宅などに住む弱者、高齢者の支援をするだけでなく、震災の恐ろしさ、そして絶対に風化させてはいけない現状を伝えていくために、被災現場を訪れるスタディツアーやボランティアの受け入れなどもおこなっています。ぜひ、皆さんも一度、気仙沼に来てください

(Tree Seed理事長 齋藤 卓磨)

Tree Seedが企画・コーディネートします

- ◎被災現場の視察をしたい人
- ◎ボランティア活動をしたい人
- ◎現地の人たちと交流をしたい人

お問合せは、Tree Seed TEL/FAX 0226-29-6935



共に歩む 平楽中との国際学習の取り組み

地球の木は、支援地から学んだことを地域や学校などで伝え、「私たちの暮らしを見直そう」と呼びかける「地球市民教育」に力を入れてきました。毎年、出前講座の依頼が来る学校が数校ありますが、そのうちの一つに、13年間「国際学習」に取り組んできた横浜市立平楽中学校があります。地球の木は、この取り組みが始まった頃から、生徒を対象にした出前講座にファシリテーターを派遣するだけでなく、教員研修にも協力してきました。



「たうんチーム」がいぎいきと始動!

新しい地域活動を

2011年度まで、地球の木は神奈川県を11のブロックに分けて、各ブロックからそれぞれ代表が集まり「ランチ連絡会」として講演会や支援地の報告会を企画し、地域活動をおこなってきました。しかし近年、代表が出られない地域があったり、出てきても毎年同じ顔ぶれで次に続く人が現れず、新しい活動が思うようにできなくなってしまいました。そこでこの1年間、どうしたら活発な地域活動ができるかを考えてきました。その結果、地域の枠を取り外し、誰でも参加できる形にし、自分の住んでいる地域で国際協力と暮らしを考える活動を推進しようということになりました。そして名称も「ランチ連絡会」から「たうんチーム」へと変えることにしました。

クイズで伝える

「たうんチーム」となるとはじめての活動は、3月18日大和市の「やまと国際交流フェスティバル」に参加しての「マジカルシュガークイズ」でした。簡単なクイズから、甘いお

同校では、先生方が中1対象には、地球の木のオリジナル教材「マジカルバナナ」のワークショップを行い、中2では「貿易ゲーム」、中3では「新貿易ゲーム」をします。その後、クラス毎に地球の木や他のNGOからファシリテーターを迎えて、参加型のワークショップを行い、最終的には、生徒たちが学んだことを作文に記し、その中から優秀作を選んで校内スピーチコンテストを実施します。

2004年にはスピーチコンテストの優勝者が横浜市のスピーチコンテストで優勝し、「ピースメッセンジャー」としてニューヨークの国連本部でスピーチを行うという快挙がありました。

先日、また平楽中から朗報が届きました。JICA主催「グローバル教育コンクール2011」の国際協力レポート部門で、平楽中が「セイン・カミュ賞」と「学校賞」を同時受賞。JICA国際協力中学生エッセイコンテスト2011でも佳作に入選したと言うのです。継続は力なり。13年間サポートしてきた平楽中の国際学習が社会的に評価されたことは、地球の木にとっても大きな力づけになります。今年も5月12日(土)に出前講座をおこなってきました。(出前講座チーム 乳井 京子)

砂糖の「苦い現実」や、その意味を知ることによって今の日本の問題が見えてきます。遠い海外の話だと思っていたことが、実は自分たちの身近な問題と同じなのだということもわかり、地球の木の支援活動の目指すところが、立ち止まって興味を持ってくださった方々にも伝わりました。

楽しい報告会

4月3日には川崎市登戸で、「ラオスってどんな国?」と題して、ラオス報告会を開きました。「地球の木の報告会は横浜が多いので今まで遠くまで行けなかった」という会員の方や、「ラオスの国に興味があって実際に行った人の話が聞きたい」という方などが10名近く集まって熱心に話を聞いてくれました。その後の歓談では、ラオスチームメンバー手作りのラオスのお菓子とコーヒーとで、楽しい報告会になりました。参加された方から「地球の木の他の支援地の話も聞きたい」との希望も出て、次につなげたいと思いました。

仲間も増やしたい

これから「たうんチーム」は、いろいろな地域のイベントに参加して地球の木の活動をアピールする事は勿論、海外支援地に行ってきた会員と一緒に様々な場所に出向いて、その近くの会員の方々にミニ報告会をします。そして新しい仲間も増やしていきたいと思っています。また、月1回開く定例会では、テーマを決めて勉強会をおこない、メンバーで問題を共有してそれを発信していきます。どうぞ興味のある方はどんどん「たうんチーム」のメンバーになって下さい。一緒に楽しい企画を考え実行していきましょう。

(たうんチーム 豊田 由紀子)

活動日誌(3月~5月抜粋)

3月13日	第11回理事会	4~5日	デポー展示会(霧が丘デポー)
14~15日	デポー展示会(のぼりとデポー)	12日	第8回三ヵ年計画策定委員会
16日	カンボジア報告会(遊土)	17日	第13回理事会
16~17日	デポー展示会(センター南デポー)	23日	監査
18日	やまと国際交流フェスティバル(大和市)	5月1日	第14回理事会
20日	地球の木カフェ(事務所)	17日	第15回理事会
27日	第12回理事会 プログラム連絡会	18~19日	デポー販売(日限山デポー)
29日	第10回ランチ連絡会	19~20日	あーすフェスタかながわ2012(本郷台)
31日	キャッシュ・フォー・ワーク完了式出席(南三陸)	26日	第13回総会
4月3日	ラオス報告会(登戸)		

*この他、各チームミーティングなどが開かれました。

みなさんの言葉にカづけられました

20周年アンケートから

ふだんなかなか聞けない会員の皆さんの声。設立20周年を迎え、会報49号と一緒に配布したアンケートに回答を寄せて下さったのは、残念ながら少数でした。でも、その力は偉大。特に、書き入れていただいたコメントからは、温かい励ましのお気持ちが感じられ、おおいにカづけられました。年4回、地球の木の活動を伝える会報誌が届く先には、こんな会員さんがいるのだなと実感できるのは嬉しいことです。ありがとうございました。以下は皆さんからの声いくつかです。

- ◆ 微力ながら活動を支える一員であることに喜びを感じます。
- ◆ とにかく息の長い活動をしていくことが大切だと思います。
- ◆ <提案> 地球の木といえば「〇〇」という特色を持つこと。
- ◆ 積極的な活動はできないが末永く支援の手伝いをしていきたい。
- ◆ 会費納入でしか参加できないが続けたい。これからの活動に期待しています。
- ◆ <望むこと> 当事者意識をもって活動に関わる人が増えて欲しい。

(会報作成チーム 斉藤和子)



ネパール/ロシ・ラハールを読む

ネパール料理を楽しみ、村の最新情報や人々の考えを知る会です。「ロシ・ラハール」は、「ロシ川の波」という意味で、支援地マンガルタール村の人々が発行している会報誌です。ネパールレストラン「スंगाバ」の店長が「ロシ・ラハール」のいくつかの記事を解説します。

日 時：6月18日（月）13：30～15：30

場 所：ネパール料理店「スंगाバ」
(JR関内駅南口より徒歩5分)

申込み・問合せ：地球の木事務局

中学生・高校生等のための よくわかるボランティア・ナビ

ボランティア活動の初めの一步を踏み出そうとしている若者のためのイベントです。地球の木は「作っている人を応援する買い物の仕方を知ろう」というブース出展をします。

日 時：6月24日（日）10：00～15：00

場 所：かながわ県民センター2Fホール

主 催：神奈川県教育委員会

参加費無料・申込み不要

新しくなった地球の木ホームページを 利用していますか？

- ◆ ブログ「地球の木カフェ」では身近な話題をもとに肩の力をぬいた記事を掲載しています。ぜひ一度お読みください。
- ◆ クレジットカードで寄付ができるようになりました。みなさまのご協力をよろしくお願いします。
- ◆ 最新のイベント情報、ボランティア募集情報も掲載しています。ご覧ください。
- ◆ 詳しくは、地球の木 検索

JVCラオス現地代表 平野さんによる報告 会を開催します

日 時：6月27日（水）13：30～15：30

場 所：かながわ県民センター708号室

参加費：300円

申込み・問合せ：地球の木事務局

生活クラブ風車「夢風」建設記念イベント

脱原発・エネルギー自治・CO2削減
～エネルギー自治社会に向けて～

日 時：6月30日（土）

第1部 11：00～16：00

にかほ市大物産展、風車建設・稼働報告など

第2部 16：30～17：30

記念ライブ（大地と風他）

場 所：オルタナティブ生活館

(JR地下鉄「新横浜駅」下車徒歩7分)

主 催：生活クラブ風車オープニングイベント実行委員会

後 援：秋田県にかほ市

◆地球の木は展示とソーラーケーキの販売を行います。

『ネパール エコツアー2012』予告

～「幸せ分かち合いムーブメント」を肌で感じよう！～

ネパールの支援地マンガルタール村の人々は、数々の困難を自分たちの力で克服し、助け合って暮らしています。山から水を引いて灌漑用水を確保したり、小型水力発電で電気を引いたり、エコな試みをしています。

今年のスタディツアーは、環境にも人にも優しい暮らしをしている支援地の人々と交流します。

日 程：9月末～10月初旬の8日間で調整中

旅行代金：22万円（予定）

訪問先：カブレパランチョーク郡マンガルタール村とカトマンズ

詳細は、HPまたは事務局にお問い合わせ下さい。

地球の木は「認定NPO法人」格を取得しました

2010年7月16日以降のご寄付に関しては、皆様が確定申告で寄付金を所得控除できるようになります。また、神奈川県と横浜市の個人住民税からも控除となります。